

飯豊・二王子岳 山スキー

木下

【日時】 2013年3月16日(土)～17日(日)

【メンバー】L木下 棚橋 佐貫

かねてからスキーで訪れてみたかった二王子岳、3度目の正直でトレースできました。地元が開拓した積雪期ならではの周遊ルート、高知山からの稜線散歩、ピークからの大展望、快適な滑降を楽しめる秀逸なものでした。

3/13 晴のち雷雨

南俣登山口に車をデポし、シールで林道を歩きだす。1時間40分程で小尾根に取り付く、トレースは左手の急な尾根についているがスキーでは難しい。小さい沢を登り尾根へ詰めあげたが、アイスバーンの上に新雪が乗っておりスキーが滑って苦労した。



尾根上は少々枝がうるさいがスキーが邪魔になるほどではない。大きな卵のような石の脇を通り、ブナ林の中を登って行く。高知山からは樹林がきれ、展望が広がる。標高1000mの山とは思えない雪のボリュームだ、二王子岳ははるかに遠い。



黒い雲が厚くなり風が吹き出し、ピークも見えなくなってきた。荒天が予想され、鳥居峠付近の雪庇の陰で幕とする。テントに入ってからすぐ、突風とともにみぞれ混じりの雨、雷も鳴りだし、早めの行動終了で正解。

3/14 快晴

放射冷却でアイスバーンになってしまった。スキーを担いで出発、アイゼンが気持ちよく利く。七滝沢源流からの二王子岳、二本木山

の稜線を眺めつつ、稜線散歩。群青色の空と白い山並みのコントラストが素晴らしい。場割峰より七滝沢源流へ滑降する予定であったが、このアイスバーンではかなわず尾根伝いに三王子神社へ抜けた。

緩い尾根をたどり二王子岳に到着、ピークからは飯豊連峰の銀屏風、新潟平野から日本海、遠く朝日連峰が浮かぶ大展望だ。

風が冷たくアイスバーがなかなか緩まない、小屋の中でお茶を沸かしてくつろぎ、登ってきた地元の方々とおしゃべりして時間を過ごす。

さあそろそろ良いか〜、スキーをつけて出発（11時半）。エッジは立つようになったが、転倒すると相当滑落するであろう。次々登ってくる登山者を横目に慎重にターンをする、素晴らしい好スロープだ。油コボシ（p1201）の右手を回りこんでワサビ沢に滑り込む。急な源頭のアイスバーンは横滑りで高度を落とし沢へ滑り込んだ。沢の中は「モナカ」で雪質悪いが滑落の危険がなくなり「ホ！」と。

ワサビ沢は地形図で見るとははずっと広く快適な中斜面が続く。今日は、「モナカ雪」

雪質悪く苦勞する、久しぶりにシュテムターンの連続となった。標高900m付近から表面が溶けた軟雪になりターンが決まるようになる。快適にスキーが走るようになり爽快、お二人にも笑顔が戻った。

ワサビ沢の出合、大中入沢の渡渉を覚悟



していたが、かろうじてブリッジが残っており容易に対岸に渡れた。林道を少し滑るとスキー場、緩斜面のゲレンデをひと滑りして終了。タクシーで車デポへ戻ると登山口には20台以上の車が駐車しており、そのすべては「新潟」のナンバーであった。二王子岳は「地元で愛される山」なのであろう。東京もんも、大満足でした。



【行程】 3/16 南俣集落（8:10）-尾根取付（9:55）-P675（11:40）-高知山（12:40）-鳥居峠付近（13:20）C1

3/17 C1（7:15）-場割峰（8:00）-三王子神社（9:35）-二王子岳（10:00-11:30）-油コボシ（12:00）-ワサビ沢出合（12:40）-ニノックススキー場（12:50）

【地図】 上赤谷 二王子岳 菅谷